

課題 「農業経済学は、これまでの経済学の範疇では語れない」

お届けするにあたり前提があります。

これを、理解していただくには

一つは 「漢字の歴史」が重要なポイントです。

もう一つは 日本人の言語「言葉の意味や知識の拠り所である国語辞書」を証明に用いていることです。

学問や科学とは言い難い、非常識だと、思える発想であり、仮説やその証明をこれまでに気付くことがなかった方法で行なっております。

学問／科学には考えられない愚かなことだと思いき方々は、このことをどんなにかお笑いになるかと思いますが、私には、私の中の常識ですから、餅茶らです。

およそ、文章すら書けない浅学非才の輩の戯言と、お笑い下さい。

冗談の軽在楽として主張いたします。

「化育」「経世済民」を辞書でお調べになってからその後お読み頂ますようお願いいたします。

農 望 世 問

日本語の背景には漢字があります。漢字には中国大陸の数千年の歴史の背景があります。漢字は、大陸から日本に伝えられ訳せられ新しい時代にはあたらしい意味と当て字に変化しました。

経済（経世済民＝経国済民）もその意味は 現在では 経済活動や経済行為（社会生活を営むための、物の生産・売買・流通・消費などの行為／活動。）の意味に変化しています。

経国済民の時代（古代）は 生活物資＝（生活の三要素）は比較的単純な農業だけで生み出された物であったと思われます。それらは、初期は、一族で強い者も弱い者も子供も年寄りもこれらの物資を分け与えられてこそ政治であるとの思いから、この言葉がうまれたのでしょう。この様に福祉の意味が古代より存在し、政治の理想と認識されていたのです。その後も狭い範囲の物々交換程度はあったかも知れませんが経世済民の時代です。

古代政治が、この漢字四文字熟語を作り出していたのです。そのことを思う時、現代の政治経済での、福祉のあり方生活保護費の減額などの課題は何を意味するのか考えさせられます。

後の時代、物のやり取りの量や回数や距離が増大し流通が貨幣を必要とするようになる頃、手工業／商業を専らとする専門家が誕生します。経国済民の本来の意味は、古代から現代まで書籍にこそ記されてはいますが、ここら辺りから「福祉」の意味は、薄れていったものと考えられるのです。我が国では、私の聞きかじりでは、江戸か明治の頃？の economy を訳する頃から次第に現在のエコ（節約の意味）そして 生産／流通／販売／消費／金融／株式・・・などの活動や行為を意味するほうへ、一気に使用頻度が高くなり、現在に至っているようです。

自由主義経済においては、ルールに基づき行われれば、益を求める活動は人間の正しい行為としてそのすべてが認められたのです。しかし、どうでしょうか？ 私達人間は、身心能 凡てに何一つ平等ではありません。平等で無いのに競争はできません。もし能力や力の差異を均一に平等に出来るとしたら神様だけです。だったら、もう一度、経済は経世済民へ戻る必要があると思いませんか？ ですが、それが可能な時代は、化育の農業の時代だけなのです。人口が増えすぎた現在では、これは理想ですから、これからをどうするか？
について、考えなくてはなりません。

人類が生きて行くための食糧確保の「農業」についての経済学はどうあるべきか考えなくてはならない時代へ突入したのです。地上80億以上の人口の時代は、経済学の産業分類から考え直さなければならなくなってきたと私には思えるのです。

休 憩

三省堂新明解国語辞典より 「農業」周辺の言葉の意味を確認します・・・

農業 とは 土地を利用して米・野菜・果樹などを栽培したり 鶏・蚕・牛などを飼ったりして生産をあげる職業 (ここでは経済学用語として記されています。)

生産 とは 人間生活に必要な品物を作り出すこと

品物 とは しいな[もとは 等級・地位の意] 鑑賞・使用・保存に堪える[その価値がある]何物か

以上のような、意味が記載されていますが 以下お考え願いたい。

農業とは 鑑賞・使用・保存に堪える[その価値がある]何物か を作り出す ことを行う職業だろうか？これらの条件の品物とは、第二次産業 手・工業製品ではないかと？ここに注目いただきたい。農業が作り出すものは食物ではないか？ 品物=食物ではないと思えるが・・・。

辞典の間違い？

※ 品物と食物とを区別した場合 この後の展開に違いが見られるが、考えてほしい。
品物=物として役立つもの 食物=人体に取り入れてその生命の維持に役立つもの
品物=食物？ではないと思うが？ この2つのことばは区別されるべきでないか？

農業は、経済学の産業分類では、よく[第一次産業]という分類をされるが、これは 語意を専らとする国語辞典に拠れば、意味内容の適切な判断であろうか？ 疑問を抱かざるをえない。第一次産業という分類や表現は 「農業経済学」を考える上で大変重要な要点である。

次に

産業 とは 生産に従事する事業

事業 とは 経済行為 を本途 (本来の道筋) とする] 仕事

経済 とは 古代は経世済民の意味 つまり福祉 だが

経済行為 となると 経済的目的である結果を伴うことをすること⇒行動 とある

現在は 経済 の意味は福祉とは取られず、経済行為の意味 こちらが断然多いような気がする。

つまり農業では 鑑賞・使用・保存に耐えうる[その価値がある]何物かを作り出すこと・・・
生産というのではなく、生産 産業 事業 は これらの行為 つまり 経済行為 の方
であると思われる。これは国語辞典の間違いではなく 農業についての基本理念を間違えたこと
によるものと思われる。

では再度 「福祉」 とは 幸福の意味 満足すべき生活環境 と記されているが

満足すべき生活環境 とは 以下の部分 直訳
自分の思いどおりになって気分のいい状態になる べき (そうすることが当然) の意味
生物が生きていて、からだの各部分が活動・する (している) こと。
環境 (そのものをとりまく外界)
簡単に言えば その取り巻きに生きて動いていれば何不自由なく幸せであるのが当然である。 の意味

再度お考え願いたい、古代集落にあった採集経済社会から発展し農業を営む農業経済社会へ、ここら辺りまでが経世済民の時代であったかも知れません。未だ第二次第三次産業などは誕生していませんでした。それらは無くても 満足すべき生活環境 であつたのでしょうか。

仮説 農業 は経済学における分類の 第一次産業 に位置づけるには問題が有り過ぎる。

古代は農業だけで 満足すべき生活の(三要素)、中でも(食糧や環境) を調えることができたのです。それをその社会の全員が職業としていたのです。

しかし 職業 という意識は無いはずです。 採れた糧だけ皆で分配する、収支が合わず生活が成り立たないということもない、それだけでも経済行為 とは言い難い時代です。「農業」がすべてを分け与える「福祉」なのです。 なぜなら、現在でも 農民は食糧の生産は己が食するだけを生産するのではなくその他国民の他産業従事者に分け与える目的で生産する、それは容易に保存が出来にくいものであり鑑賞に堪える使用に耐えるという物でもないものを仲間のために用意する 「物」が違うのです。それを産業分類に第一次産業第〇次産業等と、安易に経済活動／行為の分類に入れるのは適当でないのは先記の理由 品物と食物は区別すべきもの から想像できるではありませんか。

経済産業省の経済は経済行為活動の意味 農林水産省の経済は経世済民なのです。

職業 とは 生活を支える手段としての仕事 これを認識する限り、 生産 産業 事業 などのそれぞれの意味と十把一絡げに扱えないことも明らかです。

職業 = [生産／産業／事業] ではありません。 これらは収支がプラスでなければ成り立ちませ

んが、農業は収支以外の何かがあるから成り立っているのです。そうです。分配の約束の条件の上にこの職業はあるのです。その他の産業は、必要とする人にだけ譲り与えればいいのですが、食糧は生きて行く人間には絶対に分配しなくてはならない物を用意する職業なのですから、当然ここに経済活動／行為の意味は否定され、「農業」の意味は経世済民 福祉の意味が肯定されることとなります。

もうお解りですね。農民の働く意思は経済行為としてだけではない、士気の高い職業意識によるものです。このことに甘えたその他産業の従事者はそのことを良い事にして、歴史の中で気付くこと無く今日に至っているのです。ここに農業経済がその他産業経済と同様の土俵で扱われるのは不利なことは明白です。（農業不利論）次回にでも記します。

つまり、農業の場合、これまでの経済学での産業別分類にそのままに位置づけておき、その全体で行われる経済的行為と全てが平等であり同様であると解釈して良いものか？疑問視することが大切です。これからの時代はこの部分の経済学の研究に着手すべきです。

これは詭弁ではないと思えるのです。「農業」の意味は、文字にその歴史的史実を伝える漢字の成り立ち、また古典としての事実が背景にあり。後世の経済学上の分類などがその叡智に及ばないという事実が、国語辞典にても明らかにできたと思えるのです。如何でしょうか？

もう一方再度 経済を福祉と解釈すると、

満足すべき生活環境（以下直訳）

生物が生きていて、からだの各部分が活動・する（している）こと。

自分の思いどおりになって気分のいい状態になる

環境（そのものを取りまく外界）

べき（そうすることが当然）の意味・・・

満足すべき生活環境であるからして、それらを調えるだけであれば、それは、生活の三要素 衣食住の意味につながり、元々古来の農耕民族の時代は、その三つ全部が、農の生活労働知恵によって齎され満足されたもの、つまり福祉と同様のものです。この解釈には無理がありません。

ここに 生産 産業 事業 などの経済の用語・言葉は、貨幣経済行為・産業革命・株式資本 以降の後世の「人知もの」と考えられ、

天のみぞ知る「天知の農業」にはこれらの言葉は相応しくない言葉だと考えられます。

おそらく、地上の人間の歴史のはじまり、長い時間を経たその後の産業革命などの人口増加により、分業化により、それによる技術の高度化により、これらの言葉は創られたのであると思えるのです。

となると、農業＝経世済民＝衣食住＝福祉の公式が古来の人間生活の原型であり

[生産][産業][事業] という言葉は、経済行為 人間の更なる豊かさを求めるの欲望 [現代の貨幣／流通／金融／証券／高度経済社会で営まれる目的活動に至るまで]の過程で生まれた。

つまり (経世済民) から～ (経済行為) へと言葉が変化した間に その過程でこれらのことばが創られた (誕生した) と考えられます。

私は、農業は化育ということからして、「農業生産」という言葉は少しおかしいと感じます。

ここで、唐突ですが、再度 仮説を立てます。

(仮説) [生産][産業][事業]などの経済行為のこれらの言葉は当然第一次産業分類「農業」を表現するには相応しくない・・・と

では、どのような言葉がより相応しいか？

播種管理採集収集収穫分配加工保存組立使用消費調理摂取等などの言葉をひっくくる便利な言葉を探しだすことが大切です。これらの言葉は6次産業というのが近頃の傾向ですが産業分類はこうあるべきだということもないと思えるのです。農業は既に6次産業にまで発展したのですから、自動車でもカラーテレビでもなんでも農業で作ることになるでしょうね。農業経済学者は・・・情なく理解に苦しみます。これをジョーク (挙げ句の果て) と言います。形財学計財額は混迷しています。

この混迷は、自然からの預かりの仕事の価値を全て貨幣により判断する経済活動／行為であると、安易にみなしたことによる間違いに起因します。

一旦この思考は停止 休憩

近代経済学の混迷と経済哲学の無さが今日の新自由主義を導いていると思えるのです。

「バカは死ななきゃ治らない」の諺は経済学に夢を見る一部の人と欲望に夢を見る人と贅沢と怠惰に夢を見る一部の国民 つまり、一部の人がお金の亡者となり世の中に迷惑を導いているのであるが、そのバカさ加減の言い草は、「一生懸命頑張り働く人が報われる様

な社会にしなくてはいけない・・・」という表現であったかと？

一生懸命頑張り働く人は仕事のことは考えていてもお金儲けのことは後からにしているのが真実である。こんな事をご承知でない方々はそのことだけで恥ずかしい人である。

年老いたり病に伏したりしている人もいる幼い子供も・・・働けない人々は沢山いる。

もう一つ正直に言えば、「一生懸命お金の働いてもらえる人々は・・・報われる・・・ではないのですか？

数十年前、選挙カーに乗り、福祉の大切さを大声で主張連呼 その面影は何処へ消えていったのですか・・・好景気の時代に福祉を叫ぶのは容易いですが。

再度 経済という言葉 経国済民 経世済民 「国（世）を治めるということは、民の救済をすることである」 の意 = 「福祉」でもあるのです。

なのに なぜ 底辺所得下位層部の施策を優先しないのか？
産業経済の発展が先ず・・・と 逆 所得上層部の税を徴収しようとするアメリカの良いものまねが出来ないのか・・・

経済学の欲亡実現活動は、昔より意欲的に働き、お金集め貯める活動として、公認されていることで悪いことでは絶対ない「形財学」は漢字の違いで計財額でしか無く、貧乏人の観・間・感 違いである・・・と そういう人は刑罪人では・・・

観は、みる 間は、あいだ 感は、かんじ・・・
貧乏人もお金持ちも お金を 観ている 間 感じている のが形財的欲望である。
そのため、人生に優れた価値観と良い精神理念の無い人々が新聞の〇〇記事の紙面を好む、そんな人々は、〇〇株式関連情報を見聞きする時は、目は赤く大きく、耳もウサギように大きく尖っている・・・
だから兎に角、情報内容の変化により影絵には「サタン」のように見えるときもある。

キリストの教えだったか、人は生まれながらにして罪深い・・・施しを・・・これで下線の部分証明出来ました。

私は情報処理・計算能力の発達した現在こそ、もう一度 高度修正資本主義はどうでしょうかといいたいのです。

そうです農業は納行なのです。採集した物（食糧）を平等に分配するための農業経済学を現在の経済学から分離して、次世代経世済民学にする必要があります。これだけ演算能力の高い技術の時代、世界中で分配の経済学の研究を工夫をすれば何とかなるでしょうね。
この理論無理ですか、間違っていますか、理想ですか、どうですか・・・

書いていて、自分で迷路に迷い込み、証明できないでいるような気がしています。
土台、国語辞典で言葉の意味から、その説明に入り、第一次産業が23次産業といわれて
いる他の生産産業との異なりを証明する
再度 これが 偶然にも 経済産業省と農林水産省と別にされている理由かな？なん
て・・・

未完成ですが送ります。ご感想お願いします。

2013年1月1日

さいたえんグリーン・ツーリズム
農望世間